

実証概要

Demonstration overview

豊岡市 DX・行財政改革推進課

日本初！？中山間地域におけるコミュニティ配送による社会的処方「兵庫・豊岡モデル」を実現したい

課題

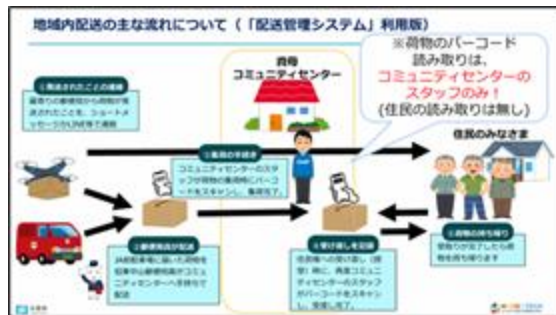
- 地域の拠点施設に届いた荷物の配達状況を把握・記録する等、コミュニティ配送を適切に管理するシステムが利用したい
- 社会的処方の考え方を取込み、配送を担う高齢者等のモチベーションを向上させる仕組みを考えたい

実証内容

- 住民が、地域に荷物が届くことが把握でき、また代理受領などの助け合いにより回収ができる“仕組み”を、住民と協働しながら構築する

採択企業

株式会社ラック



荷物配達状況の確認



荷物外観画像の登録

実績・成果

- 実証期間中に、登録荷物数29個、SMS発信233通、代理受取8回、アプリ更新13回を行った
- 協力住民が配送課題を自分ごと化し、解決を目指す雰囲気醸成された
- 住民発案の解決策を高速&高頻度開発で実装(実現)することで、住民が課題に向き合う自信の醸成に寄与することができた

実証内容（ラック）

株式会社ラック 実証地域

豊岡市但東町奥矢根区

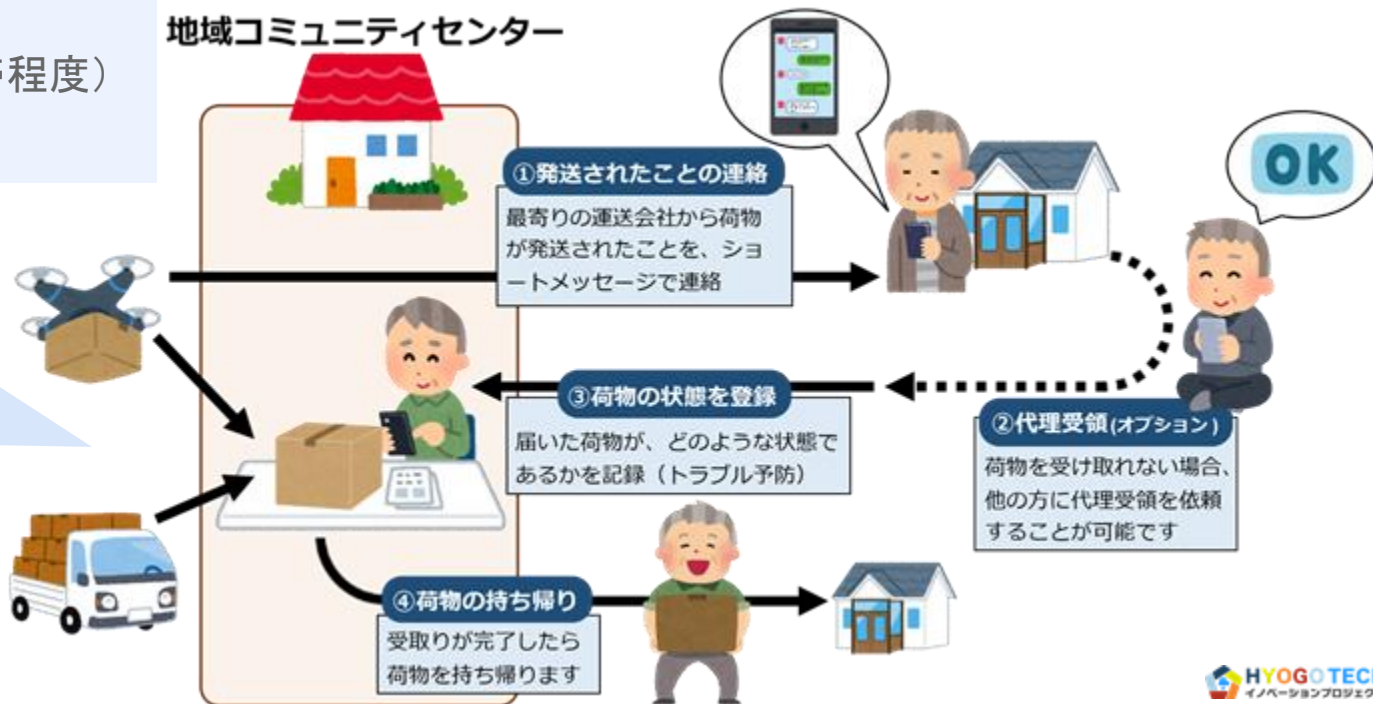
- ・ 1 集落
(人口100名・40世帯程度)
- ・ 協力住民：4名

小規模で、住民との対話により
“地域に合ったシステムを構築”しながら実証を推進

地域コミュニティセンター

- ①届く荷物の把握
- ②助け合いにより
回収の“仕組み”

の実用性を確認



実証内容（ラック）

配達事業者側画面



- ✓ とにかく **シンプルで識別可能なUI**の追求
- ✓ 業務多忙の配達事業者もスマホに熟達していない高齢住民も、**直観的に操作できる1画面完結のUX**
- ✓ 1つの荷物の配達状況や状態の情報を**双方で連動**して把握できるマルチサイドサービスシステム

住民側画面



実証結果（ラック）

- 協力住民自身が配送課題に対して、課題を自分ごと化してもらうことができた。
- 住民発案の解決策を高速&高頻度開発で実装(実現)することで、住民が課題に向き合う自信の醸成に寄与することができた。

登録荷物数

29 個

SMS発信回数

233 通

代理受取回数

8 回

アプリ更新回数（開発回数）

13 回
住民側: 8 回
配達事業者側: 5 回

- 実証の過程で、協力住民自身が発案した改善が実現できた。



宅配Box導入

不在カレンダー機能導入



実証結果（ラック）

5



到着SMS通知



宅配Box導入



荷物配送状況の確認

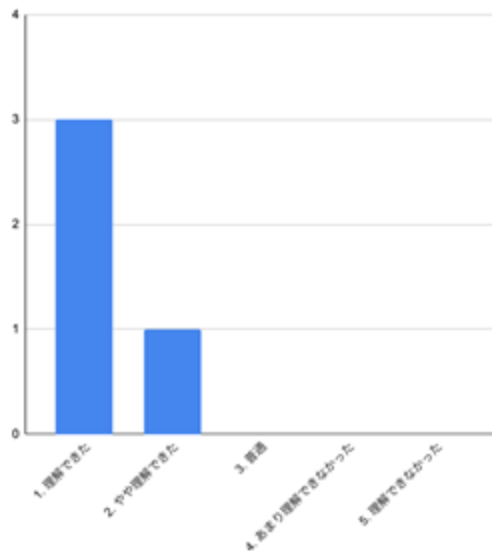


荷物外観画像の登録

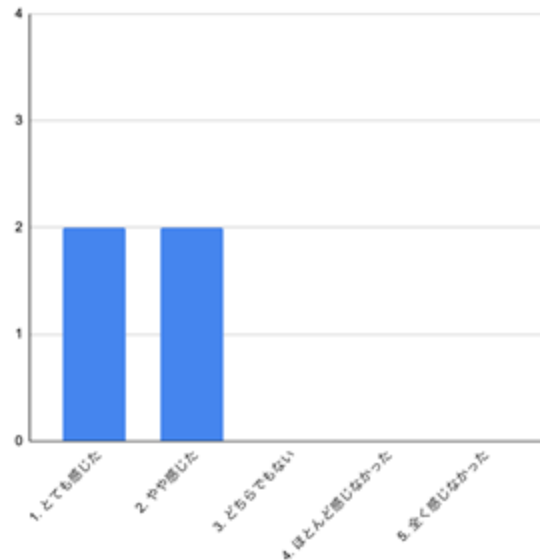
実証結果（ラック）

6

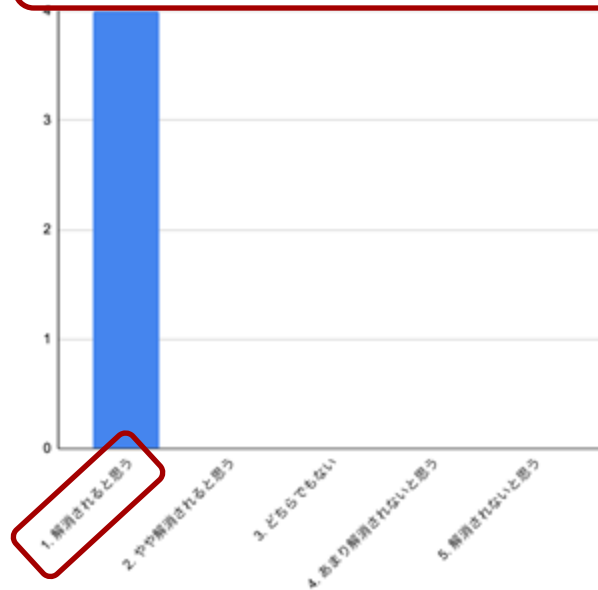
実証実験を通じて、地域の現在の物流課題についてどの程度理解が進みましたか？



今回の実証実験に参加する意義を感じましたか？



ラック社と協働し、様々な実証やシステムの改善を行ってきましたが、同様の実証を繰り返せば、配送の不安が解消される可能性があると感じましたか？



今後の展開（ラック）

コスト面での改善

実証版アプリでは、**荷物1つにつき最大で216円のSMS通信コスト**(1通12円、下記ケースで最大18通/荷物)が発生してしまうため、代替手段（Webプッシュ通知、LINE通知など）の検討が必要。

		配送業者：荷物持出		住民：荷物受取		
		登録	持出	受取可否判断	代理受取依頼	代理受取受理
住民A	荷受人	「あなた宛て荷物」	「持ち出されました」	「受取れますか？」	—	「Bさんが代理受理」
住民B	代理人	「Aさん宛て荷物」	「持ち出されました」	—	「代理受取可能？」	—
住民C	—	「Aさん宛て荷物」	「持ち出されました」	—	「代理受取可能？」	「Bさんが代理受理」
住民D	—	「Aさん宛て荷物」	「持ち出されました」	—	「代理受取可能？」	「Bさんが代理受理」
				受取完了		
				「Bさんにて代理受取完了」		

運用支援面での改善

協力住民の方々のスマートフォンごとの個別の挙動・事象も多発し、**ご高齢の方々という観点からも現地でのフォローや支援の必要性**を痛感。

社会的処方への取り組み

協力同士が**荷物の代理受取などの運用を通して、新たな活躍の出番や交流の機会を創出**できた。

今後はより具体的な社会的処方の仕組みもアプリの機能として検討していきたい。



テーマとしての取組結果と今後の展開

取組結果

- ・ 住民による地域内の荷物**配送オペレーションの大枠が確認**できた。
- ・ 地域内の配送を住民が担うことで現在の配送を維持することに対し、**協力住民の皆さんに一定の理解を得る**ことができた。
- ・ 協力住民が**将来の配送課題を自分ごと化し、地域で協力して取り組むべき、危機に瀕する前から考えるべきという意識が醸成**された。

今後の展開

- ・ 実証により判明した懸念や課題の解決策を住民と議論・さらに実証し、**持続可能なコミュニティ配送「兵庫・豊岡モデル」を完成させる**
- ・ 高齢者の出番と役割が創出される「**社会的処方**」の**一つのアプローチとしてコミュニティ配送を地域に定着させる**